

たが、いいアイデアの応募はあったのでしょうか。やまがた長井観光局は4月から旅行商品を販売すると理解していますので、旅行商品はできてると思います。どんな企画商品なのでしょう。商工観光課長にお伺いいたします。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 あやめＲｅｐｏで呼びかけました旅行商品でございますが、アイデア、今のところ応募はございませんでした。ただ、市民の方々から問い合わせを何件かいただきまして、その内容につきましては、自分もこの旅行の企画、あるいは観光局に参加ができるのかというようなご質問を電話で頂戴したところでございます。4月以降の企画商品につきましては、桜の時期を皮切りにいたしまして、山形鉄道や旅行会社とのタイアップ企画商品を4種類ほど計画してございます。そのうちの3種類につきましては、まちなかに誘導するというような形の企画を考えているところでございます。一例をまず紹介いたしますと、山形鉄道お花見列車とあら町商店街協力のまちなか散策や置賜さくら回廊とあわせたワンコインバスといった企画を考えているところでございます。また、滞在交流型、もしくは着地型といわれておりますまちあるきや体験観光、そういったものの企画につきましては、設立準備会の着地型旅行商品造成部会という部会を設置して、これまで検討してまいりました。そこでおおむね50ぐらいの提案がございましたので、そういった提案のほかに、雇用創造協議会のほうでもモニターツアーなどを実施してきましたので、そちらも商品化ということとでしながら、順次販売をしていく予定で考えてございます。以上です。

○蒲生光男委員長 6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 この長井観光局にはやっぱり市民も期待してるところでありますので、ぜひ多くの市民の意見をお聞きしながら、いい方向に進んでいって、頑張っていってほしいと

思います。私からは以上です。ありがとうございました。

内谷邦彦委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位3番、議席番号4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 産業・建設常任委員会協議会にて商工観光課より説明がありました長井市観光協会事業2,743万8,000円について、産業・建設常任委員会協議会でも質問いたしましたが、再度確認のため、通告書に従い、質問しますので、回答よろしくお伺いいたします。

観光まつり業務、宣伝業務、観光物産振興業務、入園料徴収業務などを委託し、イベントなどの企画、立案、実施を行う長井市観光協会への委託料について商工観光課、川村課長に伺います。

長井市観光協会の資料及び予算資料によりますと、あやめ回廊、白つつじまつり、ながい黒獅子まつり、あやめまつり、あやめ賑わい市、長井おどり大パレード、ながい水まつり、ながい雪灯り回廊まつり、宣伝、誘客事業、以上の事業費用合計で平成26年決算資料より2,301万6,000円、平成27年度予算資料より2,483万9,000円、平成26年度比108%増、平成28年度予算資料より2,538万4,000円、27年度比102%増、ここで教えていただきたいのですが、26年決算から27年予算が各業務に関し、101%から129%まで予算額が上がっておりますが、上げた理由について教えてください。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 長井市観光協会に委託しております各事業につきまして、平成26年度から平成27年度にかけて予算額がアップした主な変更点についてご説明をさせていただきます。

初めに、つつじまつり事業におきましては、お客様の安全確保を図るというようなことで、つつじの花のピークのときに駐車場で交通警備の強化を図ったことによる増加でございます。

ながい黒獅子まつり事業におきましては、お客様からの要望がありました仮設トイレの増設を図りましたことであつたり、夜間における交通誘導等を含めた警備強化のための経費が増加になった部分でございます。

次に、あやめまつり事業におきましては、集客アップにつなげるためにライブショーをやつたり、あと、各団体で実施する催しに対する補助等を行いまして、園内における催し物の充実を図るために、祭り期間中の催し事業費を強化したものでございます。

次に、長井おどり大パレード事業につきましては、特に女性の参加者の方からご要望を頂戴いたしまして、仮設トイレを増設するといったことでありまして、音響設備が前年度、よくなかったというようなこともございまして、聞こえないといわれた場所をカバーするために、スピーカー等を増設したことによる増加となっております。

また、あやめ賑わい市事業におきましては、これ大変ににぎわう催しでございまして、お客様用のテーブルと椅子を増設したということのほか、照明関係や音響関係の改善を図ったことによる増加でございます。

ながい水まつり事業でございますが、これにつきましては、安全確保のための警備員の増員等による増加でございます。

7番目の観光宣伝・誘客事業につきましては、こちらは、山形DCの終了によりまして、事業費自体は減額になってございます。

最後ですが、ながい雪灯り回廊まつり事業におきましては、市民の皆様の協力の輪が広がったことによりまして、ランタンを設置するエリアが拡大しました。これによりまして、ろうそ

くの本数をふやしたというようなことが増加の原因になってるところでございます。

今、ご説明させていただきましたように、お祭りへの要望なり、安全確保の面による対応による増加というのが主な原因でございます。以上です。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 それでは、27年度から28年度予算に関しても予算が上がってますけれども、同じような理由になるのでしょうか。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 お答えをさせていただきます。

同じように変更点についてご説明をさせていただきます。

まず、白つつじまつり事業につきましては、まつりの初日の花苗をプレゼントしておりますが、その花苗の数をふやしたものでございます。

ながい黒獅子まつり事業におきましては、夜間に公園に設置してる遊具の付近が大変暗いということで苦情がございまして、そういったことで投光器の増設をしたことのほか、舞台そのものがかなり傷んでおりましたので、そういった修繕に充てた部分での増加がございました。

また、あやめまつり事業におきましては、同じように園内の暗い部分等の対策ということで、ライトアップの工事が主な要因でございます。

あと、長井おどり大パレード事業におきましては、さらに仮設トイレの増設等による増加でございます。

あやめ賑わい市におきましては、前年対比で減となっております。

6番目のながい水まつり事業におきましても、前年度同額というふうになってございます。

観光宣伝・誘客事業におきましては、リーフレット並びに観光ガイドブックを増刷することによって費用が増加している部分でございます。

最後でございますが、ながい雪灯り回廊まつ

りにつきましては、前年度同額というようなことになってございます。以上です。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、先日の産業・建設常任委員会協議会で質問した際に、各業務に関して観光客数の目標管理を行っていないという回答でした。各業務について費用が発生してるが、数値目標がない中で、観光客、訪問客をふやすためにどのような対策を立てているのでしょうか。私個人の考えではありますが、観光客数の目標を前年度対比で設定し、各種対策を立て、実行、立てた対策に対しての効果、問題点を探し出し、来年、さらに効果が上がる対策を立てて観光客の増員を図ることが通常のことだと思いますが、今まではどのように開催されてきたのでしょうか。商工観光課長、回答をお願いいたします。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 先日、産業・建設常任委員会のほうで、イベントごとの観光客数については目標値を定めていないということでご説明をしたところでございます。これについて、補足してご説明をさせていただきたいと思います。

まず、それぞれのまつりにつきましては、観光協会の各まつりの委員会がございまして、そちらのほうで前年、あるいは一昨年のまつりの内容でありましたり、入り込み客数を勘案しまして、毎年の結果を分析しながら、より多くのお客様にお越しいただけるよう次年度のアイデアを出してるところでございます。それによって実施をしてるという進め方をしているところでございます。その中で出てきます具体的な実施案が予算要求にあらわれてくるというようなことになってございます。毎年、前年を上回るような目標設定をしまして、改善計画をしてるということでございますので、ご理解をいただければというふうに思います。

また、委託側であります市といたしましては、観光振興計画に掲げさせていただいておりますように、計画時であります平成24年度から10年後に20万人増で12億円の経済効果のアップを図るというような目標を設定しておりますので、観光協会で実施するお祭り、そして、市内の各施設の利活用策についても全体的な考えの中でその経済効果増を図っていきたいと思っております。オール長井での滞在交流型観光ということで、市内にできるだけ多くの観光客の方を訪れていただきながら、お金を落としていただくというようなことで、4月から、先ほど鈴木委員のご質問にもございましたやまがた長井観光局という日本版DMOを4月から稼働させていくことにしているところでございます。以上です。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 じゃあ、再度ちょっとお伺いしたいんですけども、長井市観光協会の平成26年度事業報告資料を確認しますと、各種観光事業での観光客数について記載がありました。その中で、平成25年度の観光客総数が40万9,488人、平成26年度観光客の総合計が35万9,060人で前年比87.68%、5万428人の減少となっております。この減少に関して、商工観光課と観光協会のほうで総括して対策、ないしはどういった対応で今後やっていくかという打ち合わせがあったのかどうか、確認したいんですが。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 具体的にはですが、観光協会の組織の中に私ども商工観光課も常任理事という立場で入っております。そういった打ち合わせの中で、今後、どういった方策で進めていくかについて役員会というような形で協議をしてる部分もございます。以上です。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 協議した結果、要するに、どうなるというふうな部分で、当然ふやすため

の方策を協議してると思うんですけども、それに対して対策立てて、で、終わりという形になるんですかね。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 委員おっしゃいますように、私どもの打ち合わせの中で具体的な目標数値があらわれてきていないのが現状でございますが、今後につきましては、そういった観光客がその部分で減ってる部分をいかにカバーするかについて真剣に議論していきたいというふうに思っております。以上です。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、長井市の第五次総合計画の実施計画を確認しますと、主要事業、観光振興、2、観光振興事業の中の活動指標で、目標値、見込み数値として平成27年度、66万人、平成28年度では同様に目標値68万人となっているんですね。で、今後、最終の平成34年の目標値として80万人というふうにあるのですが、これというのが当然、達成すべき数字だと思うんですけども、その辺に関してはどのように考えてらっしゃいますか。

○蒲生光男委員長 川村直人商工観光課長。

○川村直人商工観光課長 観光振興計画も含めてなんですが、先ほど申しましたように、20万人増で12億円の経済効果を生んでいくというようなことを目標として取り組んでまいりたいというふうに思っております。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、内谷市長に伺いたいんですけども、平成27年度の施政方針の中で、「観光地域づくりプラットフォームの前段として、観光事業と物産事業を連結し、組織体制を強化するため、置賜地域地場産業振興センターと観光協会の事務部門の統合を目指し、物産販売や体験型観光を含め、総合的な観光事業を展開する体制づくりを進めてまいります」とあり、平成28年度施政方針では、平成28年より「観光地

域づくりプラットフォームを組織化し、やまがた長井観光局を設立いたします。」「観光客や旅行会社などと地域の事業者の間を取り持つワンストップ窓口の役割を持つ、総合案内の機能を新たに設置してまいります。長井市観光協会、やまがた長井観光局、置賜地域地場産業振興センターの運営については効率を図ってまいります」とありますけども、長井市観光の入り口として、各種観光事業を窓口とする平成29年度にオープンする観光交流センター及び今後展開を予定しているまちなか観光について、今年度、平成28年度に来られる観光客に予告パンフレットなどを配布し、再度来てもらえるような手だてを今からすべきではないかと個人的に考えます。先行してでも目標を設定し、観光協会及び商工観光課で対応すべきと思いますが、予算に関してそのような対応が見えてないのですが、先行するための宣伝を行う準備はどのようなになっているのか、教えてください。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

その前に、長井市の観光の実情ということに対して、委員がおっしゃるように、予算がふえてるにもかかわらず、残念ながら観光客が減っていると。これはどういった理由かというのは、当然、予算を決定する議会としては関心あるところだと思います。今までの反省として、いわゆる私も長井市のほうの行政として観光業務を、主にお祭りの部分を観光協会に委託しております。観光協会は事務局が正職員1名、あと定時補助職員で対応してます。あと、観光協会の理事、役員は皆さん、ボランティアでございます。なおかつ、観光業に携わってる方はほとんどいらっしゃらないと。そういう状況の中で、観光協会は市民の皆様が楽しんでいただけるような観光を行っていこうと。それから、外からいらしたお客様にはおもてなしをしようということを前提に今までやってきました。かつ

ては観光協会と市が一体となって、特に事務局とかがキャラバンなどを組んで、あやめまつりをずっと東北各県を回ってテレビ局やら旅行会社やら、そういうところにいろいろお願いして、お客様にお越しいただくような誘客をやってきたというのものがつてはございました。しかし、長井市が行革でどんどんどん予算を削ってしまって、職員ももういない。それから、そういうPRのための予算もないという状況の中で、本当に観光協会の皆さんは頑張ってきていただいたと思ってます。これを何とかしなきゃいけないということで、観光振興計画を平成25年度に立てたと。そして、この観光客をふやして、なおかつふやすだけじゃなくて、ちゃんと経済効果も高めようということで、今回、やまがた長井観光局をこの4月から開設するという運びになったということでございますので、委員おっしゃるとおり、やっぱり予算をちゃんといただいたら、その実績を上げなきゃいけないんですが、そういう経過がありますので、ご理解いただきたいと思います。

お尋ねの件でございますが、これは3年ほど前からなるんですが、3年、4年前でしょうかね、かつては28年度のパンフレットの予算を28年度の当初予算でしてたんですね。そうしますと、どういうことが起きるかという、長井の観光は4月、5月、6月、7月がメインです、4月のサクラに始まって、ツツジ、あやめ、あるいは水まつりと。そのときのパンフレットが全部おくれおくれになってしまうと。で、去年のパンフレットを使わなきゃいけないということから、4年ほど前から前年度の9月議会に実はその予算の計上をさせていただいたところでございます。

したがいまして、お尋ねの件でございますが、昨年の9月議会に補正予算を上程させていただいておりまして、やまがた長井観光局の切りかわりとなる新ポータルサイトの準備、そして、

4月からの旅行商品造成の準備を27年度予算内で行っているということでございます。この新ポータルサイトは、現在の長井市観光ポータルサイトにバナーを張りつけまして、観光局の告知画面を見られるようにしております。また、旅行商品については、大手旅行会社とのタイアップ商品造成を先行して進めておりまして、さくらシーズンのものは既に販売開始をしているところでございます。平成29年度からの観光交流センターを中心とする長井市の観光につきましては、平成28年度はやまがた長井観光局への運営費補助金の中にパンフレットや各種チラシの印刷費を計上しておりまして、この中で予告を含む情報提供をしていく予定でございます。また、テレビやラジオを通じたメディアでの告知も予定しているところでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、平成28年度予算に関して、置賜地域地場産業振興センター支援事業の説明資料の中で、観光協会事務局を融合し、あわせ、観光地域づくりプラットホーム事務局など新たな業務を関係機関との調整を図りながら進めていくとありますけども、4月1日という形で融合なさるという形になるのでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

置賜地域地場産業振興センターは、一般財団法人地場産業振興センターですね。それから、観光協会は任意団体の長井市観光協会なんですね。ですから、4月1日から融合するのは実は事務局だけ。観光協会の事務局を置賜地域地場産業振興センターと一緒にすることです。この理由は、先ほど申し上げましたが、観光協会の職員は現在の事務局長1名が正職員でございます。あとは臨時職員なんですが、年齢的にも事務局長ですんで、50歳代でございまして、そうしますと、その後の後継者をやはりつくら

なきゃいけないと。ただし、任意団体で雇用するというのはなかなか大変じゃないかということから、観光協会の役員の皆様と協議を重ねまして、約3年ぐらいかけて協議してまいりましたが、じゃあ、まずは事務局を一緒にしようとして、事務局の今の職員が置賜地域地場産業振興センターの職員になるということをこの4月1日からして、あと、先ほど鈴木富美子委員からございましたように、28年度は置賜地域地場産業振興センター内で業務を引き続き行っていたくということの予定でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 事務局だけだとすると、その帰られた方は置賜地域地場産業振興センターの職員になって、置賜地域地場産業振興センターが基本的に命令上位者になるということによってよろしいのでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

ちょっとすっきりしない形なんです、身分は置賜地域地場産業振興センターの職員なんです、指揮命令系統は観光協会の役員ということになるんですね。これは何かといいますと、長井市の観光の中で、もう一つ欠点があるんですね。それは何かっていうと、観光協会は観光だけなんです。観光、物産が入ってない。で、置賜地域地場産業振興センター、何かっていうと、物産だけなんです。観光が入ってない。これは観光、物産一体となって、いわゆる地域の産業の振興であったり、外から来たお客様に飲食とか、あるいはお土産を買ってもらって、これ一体でなきゃいけないということで、その手始めとして今回は事務局を融合したと。やがて、難しいのかもしれませんが、観光協会と置賜地域地場産業振興センターをどこかの時点で一体とすべきだと思います。ただし、その場合は置賜地域地場産業振興センターの名称の変更なども考えなきゃいけないのかなというふう

に思っておりますし、あと、やまがた長井観光局はこの4月から置賜地域地場産業振興センターの中でスタートいたしますが、本来であれば、ある程度体制が整えば、独立した法人としてすべきだという考え方もございますので、その際に、観光協会をどうするかということを今の役員の皆様と協議を進めながら考えていきたいというふうに考えております。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 ありがとうございます。

じゃあ、次の質問に移らせていただきます。

長井商工会議所運営支援事業1,034万6,000円と置賜地域地場産業振興センター支援事業7,987万9,000円に関して、孫田産業参事に伺います。

平成28年度の予算に関して置賜地域地場産業振興センター支援事業の説明で、中心市街地整備推進機構としての役割から、中心市街地活性化基本計画の確実な実施に取り組んでいくこととあります。長井商工会議所運営支援事業では、中心市街地活性化事業とあります。どのように中心市街地活性化事業を行うのでしょうか。内容について教えていただきたいのですが、よろしく願いいたします。

○蒲生光男委員長 孫田邦彦産業参事。

○孫田邦彦産業参事 中心市街地活性化計画につきましては、中心市街地の活性化に関する法律というようなもので市町村が策定するという事になってございまして、この策定におきましては、市民や民間事業者、あと庁内外から関係機関の合意形成を図る必要から、法定協議会であります中心市街地活性化協議会というものをつくりまして検討してきたところでございます。協議会の構成につきましては、法の第15条1項によりまして協議会を組織するものの定めがあり、同項第1号で、都市機能推進にふさわしいものとして中心市街地整備推進機構、第2号には、経済活力向上にふさわしいものとして商工

会、または会議所というようなことでされてございまして、そのような関係で置賜地域地場産業振興センター、あるいは商工会議所が混然と一体となって計画づくりを進めてきたという経過でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その際、すみ分けはどのようなになるのか。また、当然のごとく重なった事業も存在すると思うんですけども、その際の調整機関及び決定についてはどこの部門が責任を持って行うのか。関係性での上位は長井商工会議所なのか、置賜地域地場産業振興センターなのか、教えていただきたいと思います。

あと、なお、通告書の2の1の文章で、すみ分け及び調整機関の機関の文字が日にちの期間になっておりますので、正しくは組織の機関になりますので、修正よろしく願いいたします。孫田産業参事、よろしく願いします。

○蒲生光男委員長 孫田邦彦産業参事。

○孫田邦彦産業参事 本市といたしましては、置賜地域地場産業振興センターを営利を目的としない法人であるというようなことで中心市街地推進整備機構に指定をしまして、長井市商工会議所とともに協議会のほうに参画していただいて、検討を重ねてきたと。その中で、置賜地域地場産業振興センターにつきましては、中心市街地整備推進機構として中心市街地の活性化に関する施設の整備改善、主にタスの改修等になるわけでありまして、に取り組む予定でございます。また、商工会議所におきましては、中心市街地活性化協議会の事務局機能を担っていただいており、会議の開催や構成員からの意見集約、協議会からの独自事業なども取り組んでおるところでございます。以上のことから、両者の役割は法の定めにより、同じ組織の会員でございまして、上位、下位というような関係にはないというような状況でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 置賜地域地場産業振興センター支援事業の中心市街地活性化推進事業の中の委託料として200万円、これ交通量を調査しての実施だというふうに聞いたんですが、いつどこで何回調査を行って、その出た結果については、何を目的としてそのデータを使用するのか。わかれば、教えていただきたい。

○蒲生光男委員長 孫田邦彦産業参事。

○孫田邦彦産業参事 中心市街地活性化基本計画の認定後においては、実施状況の把握が求められておりまして、計画期間中に毎年、確認作業が必要となっております。作業は取り組みに対する協議会からの意見や市民意識などの定性的な評価に加え、目標指標というようなことで歩行者交通量、さらには創業事業者数、そして、観光客数ということを目指してございまして、実績データの推移などの定量的な評価が求められてるという中で、今回の申請中の基本計画では、活性化の数値目標の一つとして歩行者の通行量を設定しておりまして、その測定業務を委託する経費というようなことで計上させていただいてるところでございます。作成におきましては、計画区域内に設けられた10カ所でイベント等の特別の状況でない平日と休日の2日間行うということで、計画の実施により区域内の基準点における平成26年度の測定値といたしましては190名でございますので、これを最終計画の32年度には397名にしたいというふうに考えてるところでございます。増加する根拠といたしましては、観光交流センターや本町の複合施設等が順次開設されることや、やまがた長井観光局が設立されまして、効率的な効果が出てくるのではないかとというようなことで増加を見込んでるところでございます。以上です。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 最後に、市長にお願いなんですが、今回配付された長井市第五次総合計画にかかわる実施計画の中の指標の人の数とい

うか、その単位としては1桁の場合があって、次、単位、1,000の単位になってるんです。そうすると、4万9,000という数字が入っていたり、1,000人単位かと思ったら、万人単位の単位が出てきてると。要するに、目標数値の中で4万9,000人と数字で書いてあったり、49って書いてあったり、あとは万人というふうな単位が書いてあったり、特におかしいと感じたのが、環境保全型農業項目の事業名の環境保全農業型直接支払事業の活動指標では、補助金交付面積単位が要するにアール、2万9,610アール、ところが、一方、コンポスト運営事業では同様に活動指標、レインボープラン認証農産物の作付面積が今度、ヘクタールになってるんです。それが23ヘクタールです。何で同様の単位を使わないのか。1ヘクタールっていうのは100アールなんですよね。環境保全型に直すと296.1ヘクタールとなって、44%の費用で面積が12.9倍になってるんですけども、私が在籍してた企業ですと、使用する単位は基本的に合わせると。要するに、いろんな単位を使わないというのが当たり前だと思ってるんですけども、今後はできる限り単位に関しては合わせていただくようお願いしまして、私の質問を終わらせていただきます。

○蒲生光男委員長 答弁は要らないですか。

○4番 内谷邦彦委員 えっ。

○蒲生光男委員長 答弁要らないですか。

○4番 内谷邦彦委員 じゃあ、市長、答弁お願いします。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 内谷委員おっしゃるように、それらについては取りまとめをしている所管課のほうでのやっぱりそこはミスだというふうに思います。とにかく資料をやっぱり出す際は各課から求めるわけですけども、特に人数の単位であったり、金額の単位であったり、また、さまざまな事業名などを間違っていたりしないよう

に、それぞれの課、あるいは、今は参事という役職もごさいますので、そこでもチェックしていただきながら、最終的には担当の所管の、今回の実施計画ですね、ここで徹底させるようにしたいと思います。大変申しわけございませんでした。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 よろしく願いいたします。これで私の質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

宇津木正紀委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位4番、議席番号1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 先日の小関秀一議員の一般質問のふるさと納税に関する質問の中で、孫田参事の答弁におきまして、私が12月議会の予算総括質疑で行いました、市内の製造業関連工業品についてもふるさと納税の返礼品に加えていただきたいということを提案しました、お願いというか。このことに対して早速対応していただき、ホームシアターを返礼品に加えていただきました。本当にありがとうございます。既に8台のホームシアターの申し込みがあったと説明もありまして、大変喜ばしく思っております。

それでは、私は、生きがいと活力がある長井市になることを願い、一般質問をいたします。

○蒲生光男委員長 予算総括質疑。

○1番 宇津木正紀委員 大変失礼しました。もと、予算総括質疑をいたします。

3月議会の予算総括質疑は予算全体に対して質問ができるため、私、欲張りまして、質問項目がふえてしまいました。極力簡潔な答弁をお願いします。